## 令和5年度 学力向上指導改善プラン

## 三田市立八景中学校

学校教		豊かに健やかに 夢を抱いて未来を創造する生徒の育成 び 自ら考え 自ら行動	4月			2~3月	
推進		、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課 当、図書館教育担当を中心として推進	学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標	具体的な行動目標	年度末評価	
	学力に	- 関する前年度の状況・経年の課題等	子が向上に向けての里点的な日標	(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
学力の状況	全国学習の大学で	○表現方法や漢字・言葉の意味など言語事項に関しては、おおむね習得できている。  ◆根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題がある。	〇わかるよろこびを実感できる学習指導の工 夫と授業改善	の肯定的評価は95%以上。保護者は90%以上。	て、系統的・継続的な主体的、対話的な深い学びの研究〜」を研究テーマとして、学習指導の工夫、授業改善や家庭学習の充実へ向けたアプローチに取り組む。 〇生徒が同学年だけでなく、学年を超えて共に学び合う場を設定し、互いに認め合う集団作りを進める。 〇互見授業を計画的に行うと共に、普段の授業研究を活発に行うことで、成長し続ける意欲を持った教師集団を作る。 〇iPadのアプリの使い方や効果的な使用場面などについて研究を	○学校評価アンケートで、「授業はわかりやすく、意欲的に取り組んでいるという」生徒の回答が86.3%で、わかる授業に取り組めている。 ○互見授業を実施して授業改善を図り、授業力を高めることができた。 ○互見授業を実施して授業改善を図り、授業力を高めることができた。 ○教職員の学校評価アンケートの結果、ICT機器の活用率はたいへん高い。また学んだことを主体的に活用し、応用・発展していけるような授業展開や教材開発について、校内研究会等を通して研究と修養に努めた。 ◆個々に目標を持って、主体的に学んでいけるよう学習指導を進めていく。スモールステップで実現可能な目標が持てるようアドバイスをする。また不登校生徒の学習支援に向けての研修を充実させる。 ◆時間的なゆとりをつくり、振り返りができる機会を増やしたり、少人数のグループ学習を活用し、学び合い、高め合う雰囲気作りを行う。また、個に応じた指導や学習内容の精選を検討し、基礎基本の充実等に努める。 ◆主体的、対話的で深い学びにもつながるICT活用に係る教員のスキルに格差があるため、校内研修等を計画し実践的指導力の向上を図る。 ◆学校評価アンケートでは「家庭学習を行う習慣が身についていると思う」と回答した生徒70.6%、保護者50%と課題を残す結果となった。家庭学習が定着するようにICT機器の活用や、課題提示の工夫を行う。	В
	状査の(算学)で 高調果 お	機 ◆全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ 学習において進んでいる一方、生徒同士の意見交換の場面では活用が 進んでいない。アプリの使い方や効果的な使用場面などについて研究を 重ねていきたい。	○主体的に学ぶ意欲を育てる学習相談の充実	てて勉強している」と回答する生徒の割合が70%以上。 〇学習習慣アンケートの「30分以上読書する」生	活状況の結果に基づいて、基礎・基本の知識や技能の習得に努め、カリキュラムマネジメントによ	○兵庫型学習システムを国語、英語、数学で導入し、少人数で個に応じた指導を行った。がんばり学びタイムにおいて個に応じたきめ細かな指導を行えた。 ◆全国学力・学習状況調査の「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の割合は全国平均より5ポイント高いが、60%。学校の授業に対して肯定的な評価が高いことを考えると、「学ぶことと自分の将来を結び付けて考えさせる」「学習に見通しを持たせて粘り強く取り組ませる」「適切な課題を提供し評価する」指導がいま一度必要である。	В
	定期テスト、単 元テストなどに よる状況(各者 科) 授業等からうが がえる状況(名 教科)	への支援を行う必要がある。  ○落ち着いた学習態度で真面目に取り組んでいる。多くの生徒は課題に前向さに取り組み、提出物の意識も高い。 ◆密転での必要習慣に一定程度のご参析など、れてきたが、締結的た取	○学校・家庭・地域の連携と協働の推進	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○家庭や地域との連携と協働により、地域の祭り や防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進 する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信ついて、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○『地域ふれあい美化活動』、各地域部会での『中学生の発表』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか」では、「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1 ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、脱式させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A
生活習慣等の状況の向上に係る学習習慣	状況調査の質問紙の状況	実させ、日常的に本を読む環境づくりへむけて工夫したい。  ○自己肯定局が高まり、夢や目標をもって前向きに生活しようとする生徒の割合が高くなっている。 ○「授業がわかりやすい」「学校生活が充実している」と肯定的に評価す の 各生徒の割合は400%を超えている。  ◆「自分で計画を立てて学習している」の肯定的評価を高めるため、 「常いさいたりへいかな」をおけなけばてきませた。	○自尊感情・自己肯定感を育成し、自他とも に命と人権を基盤にした「豊かな心」を育成 する教育の推進	良い所があると思う」「失敗を恐れないで挑戦している」「人が困っている時は進んで助けている」「将来の夢や目標を持っている」と回答する割合が 80%以上。	ために、生徒会活動、学級での係活動、各行事等において、一人一役を担う教育活動を継続し、自尊感情・自己肯定感を育成する。 〇授業をはじめすべての教育活動を通して、成功体験につながる機会を増やす。 〇家庭や地域と協働し、地域の祭りや防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進する。	○全国学力・学習状況調査の、「人が困っている時は進んで助けている」と回答する割合が88、4%で、学校教育目標やめざす生徒像・学校像の実現に向けた取組ができた。 ○全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」で、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が94.2%で、一人一役を担う教育活動と、家庭や地域と連携した活動により、自尊感情・自己肯定感を高めることができた。 ○各種生徒アンケート調査等を活用して、個々の悩みや不安に対して早期に対応できるよう。各学期に教育相談を実施できた。 ○小中合同研修会の実施など、学校園所連携の取り組みを行い、義務教育9年間を通して、系統的・継続的な主体的、対話的な深い学びの研究進めた。 ◆全国学力・学習状況調査の、「将来の夢や目標を持っている」と回答する割合が60%、「自分には良い所があると思う」と回答する割合が76.8%。各種調査及びアンケート、教育相談等で生徒の実態把握を行い、SCやSSW等とも連携し、個々の生徒理解と学習や生活にかかわる不安や悩みの解消に努める。	A
研修の状況・		○「深い学びに向かう力を養い、確かな学力を育成する学習指導」を テーマに研究を推進している。 ◆1年生から、働くことの意義や学ぶことと自分の将来を結び付けて考え る機会を設ける等、系統的なキャリア教育を推進していく。 ○互見授業や研究授業を積極的に行うことで、教師が互いに学び合う体 制定等を、校内全体でICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。 ・	○自分らしい生き方を実現する力を育てる キャリア教育の推進	○学校評価アンケートの「進路指導」の項目では肯定的評価の割合は、3年生が95%以上。 ○学習習慣アンケートの「夢や希望がある」の1、 2年生の肯定的評価の割合が80%以上。	室」の取組を充実させ、本物に出会う体験をもとに豊かな 心や自ら考えて行動する力を育てる。 ○キャリアノートやキャリア・パスポートを活用し、1年	○学習習慣アンケートの「夢や目標を持ち、将来に向かって努力している」と回答した生徒の割合が85.1%、学校評価アンケートにおける保護者は肯定的評価が高った。体験活動を通して豊かな心や自ら考えて行動する力の育成に努めた。  ◆学校評価アンケートの「学校は生徒の将来や進路・職業などについて適切な指導を行っている」と回答をした保護者の割合が76.9%と低く、キャリア教育と進路指導について十分な理解を得られていない。3年生に配布している「進路通信」のHP掲載の継続と、保護者への周知の工夫を行う。  ◆1年生より、働くことや学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設けるため、家庭、地域と連携した活動を行い、体験活動や社会に触れる機会の充実を図る。	В
が庭・校種間連	家庭・地域等の 状況 小・中における 教科連携等の 状況	関心が高まり、教育活動への協力・支援体制が整備されてきている。 ◆放課後や夏休みを利用した学習相談、適切な課題提供や学び方の指導を継続し、家庭学習の習慣化を図る必要がある。 ○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの系統性や継続性を大切にした取り組みを進めている。。	○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連 携教育及び小中一貫教育の推進	○学校評価アンケートの「学校生活は充実している」の項目では、肯定的評価、90%以上。 ○学校園所連携の体制を基盤に小中一貫教育の推進体制を整備する。 ○6年生への体験授業や出前授業、生徒会制作の中学校紹介動画を見てもらうなど、中   ギャップの解消に努めていく。 ○義務教育 9年間を見据えた教育課程を研究し、小中一貫教育を推進する。	た学習指導を検討し、「確かな学力」の向上と定着をめざす。 〇生徒の課題を把握し、学校種や発達段階の違い から生じる子どもたちの不安や負担を軽減し、小	○学校評価アンケートの「学校生活は充実している」と回答する生徒が88.4%で、「義務教育9年間を通して系統的・継続的な主体的、対話的な深い学び」を研究テーマとして生徒につけたい力を検討し、組織的に取り組んだ。また、校区学校園所連携の取組を推進し、12年間を見据えた「学びのすがた」と「育ちのすがた」を共有した連携を積極的に行った。 ○6年生への出前授業を実施し、円滑な小中接続に努めた。 ◆キリア教育の意義とその学習内容について情報発信を丁寧に行っていく。また、「キャリアパスポート」を核として「キャリア教育」の研究を校区小中学校で連携して推進する。 ◆中学校卒業時に身につけさせたい力を校区小学校と共有し、義務教育9年間を見据えた教育課程の研究を進め、小中一貫教育を推進する。	A